

牧師室から (2022.2.13)

前回の続きであるが、ずっと昔に関東のある大学のホールに比較的大きなオルガンが入り、その時のお披露目に参加したことがある。そのオルガンの解説をしたのはそのオルガニストであり、その際に資料としてパイプの成分表が配られた。金属パイプの成分は普通おおよそ錫と鉛であり、そこに不純物として、銅や亜鉛、アンチモンなどが微量に含まれている。しかしその解説者はその表の主成分に Zn と表記されていたのを、亜鉛と言った。するとそこで出席していたオルガンビルダーから、それは錫ではないかとの意見が出されたが、解説者は「これはある有名な化学者から聞いたことなので確かです。」と強気で返答したままその場は終わった。

確かに元素記号では Zn は亜鉛だが（因みに錫は Sn）、オルガン界の共通語はドイツ語と言ってもよいので、錫は Zinn, また亜鉛は Zink である。亜鉛が主成分のパイプというのはどちらかというと廉価で質の良くないものが多いのであり、大学のホールに入るような立派なオルガンは、大抵主成分は錫なので Zn と略して表記したのであろう。化学の泰斗といえども異分野について発言する時は用心したほうがよいし、またそれを聞いて伝えるのにも注意が必要であると感得した。

またいつだったか、ある牧師館に呼ばれた折に、客間の食器棚に銀色の小さな杯が飾ってあった。これはリキュール用の一口サイズの錫製の杯であるのが一目で分かったが、しかしその牧師は、これは有名なルターの専門家からもらったドイツ土産の銀製の杯だと言っていた。私は、これは錫ですよと言ったが、相手にしてくれなかった。その隣に紙製の小さな箱、入れ物が大切に並べてあって、下の方を見たら Zinn94%と表示されていた。ふとルターの父親は坑夫であったことを思い出したが、確かにルターの故郷のアイスレーベンの鉱山から産出される金属の種類や産出量については、神学とはほとんど関係がないことであろう。

前回と今回で、人の失敗談を採り挙げたので、あまり心地よくない感じを受けたかもしれないが、どうぞご容赦頂きたい。

(鈴木淳一牧師)